日本統合医療学会 会報
IMJニュース
No.30
2019年1月15日発行

編集・発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL：http://imj.or.jp/
〒113-0033　東京都文京区本郷3丁目35番9号
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail：imj@imj.or.jp　TEL：03-3868-0101

巻頭言

日本の統合医療構想の実現に向けて

伊藤　壽記　日本統合医療学会理事長

この度，前・仁田新一理事長の後任として，日本統合医療学会の理事長を拝命致しました。本学会の創始者であられる渥美和彦 栄誉学会長ならびに仁田新一 名誉理事長の薫陶を受け，これまでの基本路線を継承しますとともに，更なる発展を遂げるべく奮励努力する所存であります。10月の札幌での第22回IMJ定期学術大会を経て，新体制がスタートしています。一言，学会員ならびに賛助会員の皆様ご挨拶を申し上げます。

まずは，簡単に自己紹介をさせていただきます。1977年に大阪大学医学部を卒業しまして，第一外科という大外科教室に入局し，大阪大学附属病院ならびに関連施設にて外科全般の修練のあと，大学医局に戻り，免疫学をベースにして消化器外科の臨床・研究に携わりました。当時，教室挙げて臓器移植の臨床を目指していた関係で，膵臓（膵島）移植を専攻することと致しました。小動物から大動物を使った移植実験の後，脳死第１例目から始まりこれまでに48例の経験をさせて頂きました。対象患者さんは１型糖尿病で多くは腎不全で透析の方々で膵腎同時移植が行なわれます。移植後はインスリンと透析から解放され，生命予後もQOLも明らかに改善します。しかし，長年の網膜症や神経障害などの糖尿病合併症はすぐには改善しません。ここで近代西洋医学の限界に気づき，他に患者さんのQOLを上げる方法がないかを模索しました。これが私の統合医療へ踏み出したきっかけです。

さて，７年前の東日本大震災が引き金となり医療が変わろうとしています。個々人の価値観や人生観に変容をもたらし，自らの健康は自らで管理しようというセルフケアや予防医療への意識が芽生え，さらにはエネルギーに依存せずに必要に応じてエコロジーのすべ（術）を活用しようという機運が出てまいりました。

日本政府もこの大震災を契機に統合医療に対して，本腰を入れるようになりました。2012年には厚生労働省で「統合医療」の在り方に関する検討会を開催され，翌年からは国民に統合医療の正しい情報を発信するデータベース（「統合医療」情報発信サイト）の事業が始まっています。また，日本医療研究開発機構（A-Med）の統合医療に関する研究費が増額され，2016年には厚労省医政局に統合医療企画調整室が開設されました。今まさに，統合医療にはよい風が吹いていると思います。

現在，日本統合医療学会では進めていくべきいくつかの課題を抱えております。新体制でスタートするにあたり，いくつかの考えを述べておきたいと思います。

まずは，新役員として，ベテランの先生に加え，若い世代の先生方に入って頂き活性化を図りました。委員会もたくさんございましたが，いくつかを統廃合しスリム化を図るとともに，若い方々を中心に活動を促していきたいと思っています。

次に，共通言語を使ってコミュニケーションする

ための用語集（辞典）を最初のミッションとして考えております。可能なら，来年の12月の学術集会までに間に合えばと思っています。鋭意努力致します。

三つ目として，すでに23もの支部会が全国で立ち上がっていますが，今後は学会本部との連携をさらに強くして行きたいと思っています。

四つ目として，自民党統合医療推進議連の先生方と連携して，これまでと同様に中央（政府）との関係を維持していきたいと思っています。

五つ目として，グローバルな展開も重要であると考えています。すでに，プライマリーケアの最先端国であるキューバに注目しており，一昨年の視察を終え，昨年は７月に東京と京都で日玖統合医療シンポジウムを開催し，キューバの生体エネルギー・自然療法学会（BIONAT）との間で学術協定を結びました。そして，今年は９月始めに，ハバナで３年に一度のラテンアメリカの諸外国が集うBIONAT総会に25名の視察団を募り，日本の統合医療に関する発表と手技の紹介をしてまいりました。一方，12月始めには，上海で開催される第６次世界中西医結合学会に参加し，上海市中西医結合学会との間で学術協定を結びました。

統合医療の実施にあたり，２つのモデルが考えられています。一つは医療従事者が中心の集学的チーム体制で疾病に対応しようとする医療モデルであり，もう一つは地域のコミュニティが主体となってQOLの向上を目的とした社会モデルであり，これらが相互に連携した新たなコンソーシアムの創生が必要となります。前者は統合医療に関する臨床研究を推し進め，その結果得られたエビデンスを医療の現場や地域のコミュニティに還元していくことが求められています。また，後者では，平常時においては健康寿命の延伸を目指して予防医療やプライマリーケアを推進し，いざ災害などの有事に際しては，迅速に対応するといった両面性を有することが求められています。

最後に，持続可能な健康長寿社会の実現のためには，欧米の統合医療的アプローチをそのまま継承するのではなく，わが国の風土に合った日本型の統合医療を開発推進していくことが求められています。今後とも，本学会の活性化のため，ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

理事・役員一覧（任期2018年10月1日～2020年9月30日）

栄誉学会長

渥美　和彦　東京大学　名誉教授

名誉理事長

仁田　新一　東北大学　名誉教授

名誉会員

渥美　英子　統合医療女性の会　世話人代表
阿岸　鉄三　東京女子医科大学　名誉教授
岡田　昌義　国際先端総合医学研究所　所長
中井　吉英　関西医科大学　名誉教授
福岡　　明　医療法人社団明徳会 福岡歯科　会長

理事長

伊藤　壽記　公益財団法人大阪府保険医療財団大阪がん循環器予防センター所長

業務執行理事

川嶋みどり　日本赤十字看護大学　名誉教授
吉田　紀子　社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会　支部長
後藤　修司　バークレー鍼・統合医療専門職大学院　理事長
板村　論子　公益財団未来工学研究所　研究参与
小野　直哉　公益財団未来工学研究所　主任研究員

理事

相原　由花　ホリスティックケアプロフェッショナルスクール　学院長
赤木　純児　独立行政法人くまもと県北病院機構玉名地域保健医療センター　院長
浅川　明弘　鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科心身内科学分野　教授
猪股千代子　札幌市立大学看護学部看護管理学領域　教授
遠藤恵美子　武蔵野大学看護学部看護学科　名誉教授
緒方　昭子　森ノ宮医療大学保健医療学部　准教授
蒲原　聖可　健康科学大学　客員教授
木村　慧心　一般社団法人ヨーガ療法学会　理事長
小池　弘人　小池統合医療クリニック　院長
古賀　伸彦　社会医療法人天神会新古賀病院　理事長
酒谷　　薫　日本大学医学部脳神経外科学講座　教授
佐藤美弥子　一般社団法人ヨーガ療法学会　理事
鈴木　清志　医療法人財団玉川会エム・オー・エー高輪クリニック　院長

鈴木　洋通　医療法人沖縄徳洲会武蔵野徳洲会病院 院長
関　隆志　東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンターサイクロトロン核医学研究部　研究教授
土井　麻里　京都府立洛南病院
福岡　博史　医療法人社団明徳会　福岡歯科　理事長
和辻　直　明治国際医療大学鍼灸学部 はり・きゅう学講座　教授

監事

久保　千春　九州大学　総長
小山　敦代　聖泉大学　理事長・学長

委　員　会

総務庶務委員会
委員長：福岡　博史　副委員長：板村　論子
小野　直哉

規約委員会
委員長：後藤　修司　副委員長：吉田　紀子

倫理委員会
委員長：小野　直哉　副委員長：坂部　昌明

広報委員会
委員長：川嶋みどり　副委員長：板村　論子

認定制度委員会
委員長：板村　論子　副委員長：和辻　直

評価委員会
委員長：酒谷　薫　副委員長：蒲原　聖可

学術委員会
委員長：吉田　紀子　副委員長：蒲原　聖可

編集委員会
委員長：蒲原　聖可　副委員長：平井みどり

支部運営委員会
委員長：木村　慧心　副委員長：吉田　紀子

学術大会等あり方委員会
委員長：猪股千代子　副委員長：後藤　修司

国際委員会
委員長：鈴木　清志　副委員長：関　隆志

災害委員会
委員長：伊藤　壽記　副委員長：小野　直哉

認定制度について

日本統合医療学会認定制度見直しにより，従来の日本統合医療学会認定資格要項にかわり，日本統合医療学会認定制度規則が2018年12月1日に制定されました。日本統合医療学会認定制度規則は学会ホームページにてご確認ください。

認定の方へ

従来の「認定医」・「認定師」・「認定療法士」は更新時期を問わず暫定期間（2019年4月1日～2021年8月30日）において「認定医」・「認定師」・「認定協働師」として更新の手続きを行なってください。2019年1月には認定更新手続きについて案内させていただきます。

重要事項

- 認定研修
  これまでの「認定セミナー」は「認定研修」となり，更新には認定研修　Part 1　受講　が必須となりますので受講をお願いいたします。
- 「認定指導医」・「認定指導師」は今回の制定に伴い，「認定医」・「認定師」に統一させていただきます。「認定医」・「認定師」としての更新の手続きをお願いいたします。
- 「認定施設」についての申請や更新については現在協議中です。

理事長　伊藤　壽記
認定制度委員会

本の紹介

『カラダみつめる手帳』のご紹介

板村　論子
統合医療女性の会世話人

当学会の部会である〈統合医療女性の会〉（世話人代表：渥美英子）は，一般女性をおもに対象として統合医療の普及を目的に統合医療カフェや市民公開講座，また出版などさまざまな形で進めています。そうした活動

第36回　日本東方医学会 開催要綱

主催：一般財団法人東方医療振興財団　後援：厚生労働省・日本医師会
メインテーマ：**「東方医学における地域連携の可能性」**
開催日：2019年2月3日(日)　9時30分～17時00分
会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター2階　ソラシティホール（東京都千代田区神田駿河台4-6）
会頭：**赤羽　峰明**（一財）東方医療振興財団 評議員、医鍼薬地域連携研究会 代表、乃木坂あか羽鍼灸院 院長
●一般口演　・ポスター発表（漢方・サプリ、鍼灸、その他）
●会頭講演　「医鍼薬地域連携の試み」**赤羽　峰明**
●教育講演　1.「汗腺はテラヘルツ帯ヘリカルアンテナか?～東洋医学の機序解明への試み」
川瀬　晃道（名古屋大学大学院 工学研究科電子工学専攻 教授）
2.「蔵象学の現代訳」
路　京華（中国中医科学院広安門病院 客員教授）
●シンポジウム
テーマ：「医療現場における鍼灸活用の実際(医鍼薬地域連携における問題点を探る)」
高橋　秀則（袖ヶ浦さつき台病院 麻酔科、帝京平成大学健康科学研究科 教授）
長谷川尚哉（大磯治療院・ほんあつ治療院 総院長、株式会社ソクラー・テクノス 代表取締役）
奥平　智之（医療法人山口病院(川越) 精神科部長、日本栄養精神医学研究会 会長）
参加費：
事前申込み　会員：7,000円　非会員：10,000円　学生：1,000円　同行の事務員・看護師：3,000円
当日お支払　会員、非会員：一律12,000円　学生：5,000円　同行の事務員・看護師：5,000円
2018年度入会者　無料（日本東方医学会員募集中！）
学会事務局：（一財）東方医療振興財団内 日本東方医学会事務局
TEL：03-6264-301589(平日10-16時) FAX：03-6264-3016
E-Mail：gakkai@jotoho.or.jp

を通じて，より女性の生活に溶け込める方法で統合医療を提示する必要性があると実感しています。すでに2016年に一般向けの小冊子として『今日から始める統合医療 女性のためのセルフケア』を刊行し，一般の方のみならず医療従事者からも大きな反響を得ました。これまでは主に統合医療について知って学ぶ機会を提供することを主としてきましたが，統合医療を日常的に実践する1つのツールとして，『カラダみつめる手帳』を2018年9月末に発刊することができました。体調の細かな変化に関してていねいな解説と，体調を記録するチャートによって，女性がより自分のカラダに意識を払うようになることを主眼としています。知識の学習から知識の実践へ。〈統合医療女性の会〉は始動から5年を経過し，次のステージに進むために重要な書籍と考えています。

『カラダみつめる手帳』の特徴は

【1】統合医療に関する「知識の実践」を目的としている

【2】20代，30代の若い世代の女性もターゲットとした内容とデザインである

【3】毎年使い続けてもらうことにより親近感を醸成しファン化する

ともすると「難しいもの」と一般の方からは誤解されがちな統合医療を，自分たちの生活に不可欠な「生活の一部」として再認識してもらうことがこの本の最大のポイントです。そのために，女性たちから「手元に置いておきたい」「肌身離さず持っていたい」と思ってもらえるような手帳タイプの本になっています。

女性のカラダにあらわれやすい95の症状について，日本統合医療学会に所属する，皮膚科，内科，産婦人科，眼科，耳鼻科，泌尿器科，東洋医学，歯科などの専門医の監修で臨床経験を交えた最新の情報が掲載されています。

各症状のページには「関連症状」と「症状が出た日」の欄があり，不調の原因を突き止め，自分の心身のバイオリズムが掴みやすいようになっています。ぜひ手に取って日々の生活の中でこの手帳を使っていただければと願っています。

なお，購入希望の方は

〈統合医療女性の会〉https://aimw-r.com/

事務局E-mail:info@aimw-r.comへご連絡ください。

Amazonでも購入できます。

『カラダみつめる手帳』

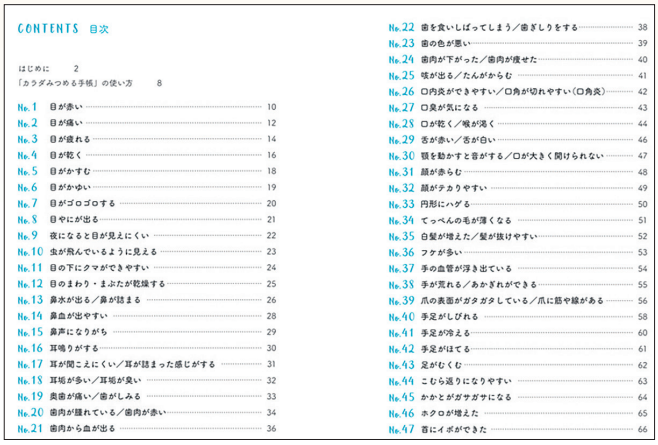
価格　1,300円（本体＋税＋送料）

監修　一般社団法人日本統合医療学会部会

〈統合医療女性の会〉

A6判（ポケットサイズ）

目次前半部分，47の症状



CONTENTS 目次

はじめに　2
「カラダみつめる手帳」の使い方　8

No.1 目が赤い……10
No.2 目が痛い……12
No.3 目が疲れる……14
No.4 目が乾く……16
No.5 目がかすむ……18
No.6 目がかゆい……19
No.7 目がゴロゴロする……20
No.8 目やにが出る……21
No.9 夜になると目が見えにくい……22
No.10 虫が飛んでいるように見える……23
No.11 目の下にクマができやすい……24
No.12 目のまわり・まぶたが乾燥する……25
No.13 鼻水が出る／鼻が詰まる……26
No.14 鼻血が出やすい……28
No.15 鼻声になりがち……29
No.16 耳鳴りがする……30
No.17 耳が聞こえにくい／耳が詰まった感じがする……31
No.18 耳垢が多い／耳垢が臭い……32
No.19 奥歯が痛い／歯がしみる……33
No.20 歯肉が腫れている／歯肉が赤い……34
No.21 歯肉から血が出る……36
No.22 歯を食いしばってしまう／歯ぎしりをする……38
No.23 歯の色が悪い……39
No.24 歯肉が下がった／歯肉が痩せた……40
No.25 咳が出る／たんがからむ……41
No.26 口内炎ができやすい／口角が切れやすい（口角炎）……42
No.27 口臭が気になる……43
No.28 口が乾く／喉が渇く……44
No.29 舌が赤い／舌が白い……46
No.30 顎を動かすと音がする／口が大きく開けられない……47
No.31 顔がゆがむ……48
No.32 顔がテカりやすい……49
No.33 円形にハゲる……50
No.34 てっぺんの毛が薄くなる……51
No.35 白髪が増えた／髪が抜けやすい……52
No.36 フケが多い……53
No.37 手の血管が浮き出ている……54
No.38 手が荒れる／あかぎれができる……55
No.39 爪の表面がガタガタしている／爪に筋や線がある……56
No.40 手足がしびれる……58
No.41 手足が冷える……60
No.42 手足がほてる……61
No.43 足がむくむ……62
No.44 こむら返りになりやすい……63
No.45 かかとがガサガサになる……64
No.46 ホクロが増えた……65
No.47 首にイボができた……66

事務局だより

【学会事業報告】

■2018年10月6日　日本統合医療学会定例理事会

■2018年10月7日，8日　日本統合医療学会第22回大会（北海道札幌市）

■2018年10月8日　会員総会（北海道札幌市）

■2018年10月8日　日本統合医療学会資格認定試験（北海道札幌市）

■2018年11月11日　業務執行理事会（東京駅八重洲ルノアール貸し会議室）

■2018年11月11日　通常理事会（東京駅八重洲ルノアール貸し会議室）

■2018年12月13日　業務執行理事会（東京駅八重洲ルノアール貸し会議室）

【今後の学会事業予定】

■2019年2月1日　業務執行理事会（アルカディア市ヶ谷）

■2019年2月1日　賛助会員・理事，役員交流会（アルカディア市ヶ谷）

■2019年12月6日　通常理事会（鹿児島）

■2019年12月7日，8日　第23回日本統合医療学会大会（鹿児島）

（文責：事務局長　河野　明正）

編集後記

●豪雨，猛暑，台風，そして地震などの自然災害の他，改竄やねつ造などの人為的非業が続いた年の漢字は「災」。新しい年を「福」に転じるための諸課題とともに新たにスタートした本学会。多彩な専門領域に係るそれぞれの会員の資質の向上を図り，確かな社会的信頼を得るための学会認定制度の刷新，チーム医療の基本ともなる共通言語の第1歩としての統合医療用語事典の編纂，倫理綱領の制定などなどを掲げています。支部活動もいっそう活性化することでしょう。30回を重ねた本号，今年もどうぞよろしくお願いいたします。（川嶋みどり）